

# シラバスの見方

山口学芸大学大学院

シラバス（講義概要）：シラバスとは、授業に関する詳細な計画書のことです。シラバスには、教科・科目をはじめとする様々な教育活動について、目標と内容、使用教材、指導計画、指導方法、評価方法等を記載しています。

授業科目名	①	教員名	⑤	免許・資格との関係	幼稚園教諭	⑦
ナンバリングコード	②				小学校教諭	⑦
授業形態	③	年次配当	⑥		修了要件	⑧
単位数	④					
教科及び教職に関する科目	⑨（幼稚園・小学校）					
授業テーマ	⑩					
授業概要	⑪					
達成目標	⑫					
履修条件・注意事項	⑬					
授業計画	⑭					
成績評価基準	⑮ 評価の方法： 評価の基準：					
アクティブラーニング	⑯					
フィードバックの方法	⑰					
時間外の学習について	⑱ 予習： 復習：					
教材にかかわる情報	⑲ テキスト： 参考書： 参考資料等：					
担当者からのメッセージ	⑳					

- ①授業科目名を記載しています。
- ②科目ナンバリングコードを記載しています。詳細は「ナンバリングシステムについて」で確認してください。
- ③授業形態を記載しています。講義・演習・実技・実習等。
- ④単位数を記載しています。
- ⑤担当教員名を記載しています。
- ⑥履修年次と開講期間を記載しています。
- ⑦免許・資格を得るために必要な科目として必修・選択を記載しています。
- ⑧修士の学位を得るために必要な科目として必修・選択を記載しています。
- ⑨免許法施行規則に定める科目区分等について記載しています。
- ⑩授業のねらいやテーマについて記載しています。
- ⑪授業のあらましを記載しています。
- ⑫達成目標について記載しています。授業計画の中に当てはまる目標を記載しています。
- ⑬履修する科目の順番や条件等注意事項を記載しています。
- ⑭授業スケジュール（各回で扱う内容等）を記載しています。
- ⑮成績の評価方法と評価基準を記載しています。
- ⑯主体的な学びを促進するために取り入れるアクティブ・ラーニングの、授業時間内で該当する学習形態について記載しています。
- ⑰課題等（試験、レポート等）に対するフィードバックの方法について記載しています。
- ⑱担当教員より、この授業科目の予習・復習についてのアドバイスを示しています。
- ⑲教科書及び補助教材について記載しています。
- ⑳担当教員より学生に伝えたいメッセージ等を記載しています。

## 教育課程ナンバリング・システムについて

教育課程ナンバリング・システムは、山口学芸大学で開講されている全ての授業科目(教養科目・学部専門科目・大学院専門科目)に対し、授業内容やレベル、更に免許・資格との関連性等に応じて特定の記号や数字を付与し、ナンバリングコードとして示すことにより、体系的な教育プログラムの実現を目指すものです。

ナンバリングコードは、「CM1-1001-211110」のように表記され、以下の①～④のとおり構成されています。

CM	1	-	1001	-	211110
①学部等領域コード	②学年水準コード		③科目区分識別コード		④免許・資格コード

①学部等領域コード	<p>科目を提供する学部や研究科等を表す2文字の英文字です。</p> <p>UM: 大学院教育学研究科 (University+Master)          CM: 教育学部共通開設科目 (Common)          UC: 初等幼児教育専攻開設科目 (University+Childhood)          UL: 英語教育専攻開設科目 (University+Language)</p>
②学年水準コード	<p>科目の開講学年を示す1桁の数字で表しています。数字と授業レベルは必ずしも一致するものではありません。</p> <p>1: 1年次開設科目          2: 2年次開設科目          3: 3年次開設科目          4: 4年時開設科目          5: 大学院1年次開設科目          6: 大学院2年次開設科目          7: その他</p>
③科目区分識別コード	<p>教育課程の科目区分(1桁)と授業科目の通し番号(3桁)で表しています。</p> <p>1: 教養科目          2: 学科目          3: 子ども学          4: グローバル学          5: 教育実習          6: 保育実習          7: 実践演習          8: ゼミナール          9: その他</p>
④免許・資格コード	<p>桁数で学校種等を示し、番号で必修・選択を表しています。</p> <p><b>【桁数】</b></p> <p>1桁目 保育士資格の専門科目          2桁目 幼稚園教諭免許の専門科目          3桁目 小学校教諭免許の専門科目          4桁目 中学校教諭免許の専門科目          5桁目 高等学校教諭免許の専門科目          6桁目 特別支援学校教諭免許の専門科目</p> <p><b>【番号】</b></p> <p>0: 免許・資格に関連なし          1: 必修科目          2: 選択科目</p> <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>※表記例(日本国憲法の場合)</b></p> <p>保育士資格としては「選択科目」 → 1桁目は、2              幼稚園教諭免許としては「必修科目」 → 2桁目は、1              小学校教諭免許としては「必修科目」 → 3桁目は、1              中学校教諭免許としては「必修科目」 → 4桁目は、1              高等学校教諭免許としては「必修科目」 → 5桁目は、1              特別支援教諭免許としては「免許・資格に関係なし」 → 6桁目は、0              したがって、日本国憲法の免許・資格コードは、211110 と表記される。</p> </div>

授業科目名	教育原論特論	教員名	川野 哲也 (単独)	免許・資格 との関係	小学校教諭	選択
ナンバリングコード	UM5-0001-02200				幼稚園教諭	選択
授業形態	講義	年次配当	1年前期	修了要件		必修
単位数	2					
教科及び教職に関する科目	幼稚園及び小学校					
授業のテーマ	教育思想、政治思想、教育制度の理論、教育実践の理論					
授業概要	民主主義、リベラリズム、共同体主義、公共性など政治と教育に関する思想について理解するとともに、教育制度と教育実践について理論的に分析、考察する。					
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リベラリズムの思想の特徴を理解し、教育制度や教育実践について考察する。</li> <li>2. 共同体主義の特徴を理解し、教育制度や教育実践について考察する。</li> <li>3. 公共性の思想の特徴を理解し、教育制度や教育実践について考察する。</li> </ol>					
履修条件・注意事項	①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育の目的は何か。民主主義に関する諸理論。 (目標 1,2,3)</li> <li>2. リベラリズムの思想 教育の権利。 (目標 1)</li> <li>3. リベラリズムの思想 公民教育のあり方。 (目標 1)</li> <li>4. リベラリズムの思想 学校選択制度。公教育の問い直し。 (目標 1)</li> <li>5. デューイの思想 民主主義と教育。 (目標 1,23)</li> <li>6. 再生産理論の問題提起、不平等な社会秩序、多文化社会の課題。 (目標 1,2,3)</li> <li>7. 共同体主義、アリストテレスの思想、美德。 (目標 2)</li> <li>8. 共同体主義、公民教育、愛国心教育、共同体のための教育。 (目標 2)</li> <li>9. 共同体主義、共同体の中の教育、地域運営学校。 (目標 2)</li> <li>10. 公共性の思想、公的領域と私的領域。 (目標 3)</li> <li>11. 公共性の思想、学校と教師の位置。 (目標 3)</li> <li>12. 公共性の思想、&lt;活動&gt; (目標 3)</li> <li>13. 公共性の思想、学級づくり、演劇教育。 (目標 3)</li> <li>14. 公共性の思想、開かれた学校制度。 (目標 3)</li> <li>15. まとめ。 (目標 1,2,3)</li> </ol>					
成績評価基準	<p>評価の方法：①授業中の確認テスト 50%、②レポート 50% 総合的に評価する</p> <p>評価の基準：①知識、思考：思想の特徴について説明できるか。思想に照らして教育制度や教育実践を考察できるか。 ②知識、思考：思想の特徴について説明できるか。思想に照らして教育制度や教育実践を考察できるか。</p>					
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション					
フィードバックの方法	毎時、学生には課題を出す。課題回収後に解説を行う。					
時間外の学習について	<p>予習：事前に配布したプリントを読み、必要に応じて調べること。90分</p> <p>復習：プリント、ノートを見て、確認すること。90分</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト：宮寺晃夫著『リベラリズムの教育哲学 多様性と選択』勁草書房、2000年。 小玉重夫著『教育改革と公共性 ボウルズ＝ギンタスからハンナ・アレントへ』東京大学出版会、1999年。 ハンナ・アレント著、清水速雄訳『人間の条件』ちくま書房、1994年。</p> <p>参考書：適宜プリントを配布する。</p> <p>参考資料等：佐伯啓思著『日本の愛国心』NTT出版、2008年。 岡田敬司著『人間形成にとって共同体とは何か』ミネルヴァ書房、2009年。</p>					
担当者からのメッセージ等						
備考						

授 業 科 目 名	教育課程特論	教 員 名	松村 納央子 (単独)	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	選 択
ナンバリングコード	UM5-0002-02200				幼 稚 園 教 諭	選 択
授 業 形 態	講義	年次配当	1 年前期	修 了 要 件		選 択
単 位 数	2					
教科及び教職に 関する科目	幼稚園及び小学校					
授業のテーマ	近代・現代の教育課程、カリキュラム開発					
授 業 概 要	欧米における教育課程に関する議論についての理解を深め、教育課程に関する現代的諸課題を考察する。					
達 成 目 標	1. 教育課程の基本問題を把握する。 2. 教育課程の諸概念の理解を深める。 3. 今日の教育課程に関する教育課題の考察・追究力を高める。					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	①面接授業のみ					
授 業 計 画	1. 教育課程の基本問題Ⅰ - 「スパイラルカリキュラム」 (目標 1,2,3) 2. 教育課程の基本問題Ⅱ - 「実践的カリキュラム」論 (目標 1,2,3) 3. 教育課程の基本問題Ⅲ - 「クロスカリキュラム」論 (目標 1,2,3) 4. 教育課程の基本問題Ⅳ - 「PISA ショック」がもたらした教育課程改革 (目標 1,2,3) 4. 学校教育課程の日独比較Ⅰ - 日本「学習指導要領」とドイツ各州文部大臣会議「教育スタンダード」(目標 1,2) 5. 学校教育課程の日独比較Ⅱ - 「コンピテンシー」をどう解釈するか(目標 1,2) 6. 学校教育課程の日独比較Ⅲ - 就学前教育における学校教育課程編成(目標 1,2) 7. 学校教育課程の日独比較Ⅳ - 初等教育段階における学校教育課程編成 (目標 1,2) 8. 学校教育課程の日独比較Ⅴ - 前期中等教育段階における学校教育課程編成 (目標 1,2) 9. 学校教育課程の日独比較Ⅵ - 後期中等教育段階における学校教育課程編成 (目標 1,2) 10. 学校教育課程の日独比較Ⅶ - 教育課程における「メディア」の扱い (目標 1,2) 11. 学校教育課程の日独比較Ⅷ - 教育課程における「多様性」保障 (目標 1,2) 12. 学校教育課程の日独比較Ⅸ - 学校教育課程の評価(目標 1,2) 13. 教育課程に関する現代的諸課題Ⅰ - コロナ禍と学校教育課程(目標 1,2,3) 14. 教育課程に関する現代的諸課題Ⅱ - 「隠れたカリキュラム」(目標 1,2,3) 15. 教育課程に関する現代的諸課題Ⅲ - カリキュラム評価、カリキュラム経営 (目標 1,2,3)					
成 績 評 価 基 準	評価の方法：①毎回の発言・質問 20%、②レポート 80% 総合的に評価する 評価の基準：①知識・理解、思考・判断：各回のキーワードについて説明できる。 ②知識・理解、思考・判断：判断の基となる資料を読解し、比較検討できる。					
アクティブラーニング	ディスカッション、					
フィードバックの方法	テキストとの解説とともに、考察についてコメントし合う。 授業改善方法について話し合う。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：次回のテキスト該当箇所を読む。90 分 復習：ノート提出・点検。90 分					
教材にかかわる 情 報	テキスト：特になし 参 考 書：田中統治・根津朋実共著『カリキュラム評価入門』勁草書房 参考資料等：					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ 等						
備 考						

授 業 科 目 名	教育方法特論	教 員 名	川野 哲也 (単独)	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	選 択
ナンバリングコード	UM5-0003-02200				幼 稚 園 教 諭	選 択
授 業 形 態	講 義	年次配当	1年後期	修 了 要 件		選 択
単 位 数	2					
教科及び教職に 関する科目	幼稚園及び小学校					
授業のテーマ	近代・現代の教育方法論の考察					
授 業 概 要	デューイの『民主主義と教育』、『思考の方法』等を主要文献として探究を基軸とするかれの教育方法論の理解をふかめる。またドラマ教育の実践を把握しながら、今日のアクティブ・ラーニングについての考察へとつないていく。 学生にプレゼンテーションをさせる際にはパソコン等の情報機器を使用させ、教材の提示・活用方法についても指導する。					
達 成 目 標	1. 教育方法論の基本問題を把握する。 2. 教育方法の諸概念の理解をふかめる。 3. ドラマ教育に関する教育課題の考察・追究力をたかめる。					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	①面接授業のみ					
授 業 計 画	1. デューイの教育論Ⅰ - 「生命に必要なものとしての教育」 (目標 1,2) 2. デューイの教育論Ⅱ - 「社会の機能としての教育」 (目標 2) 3. デューイの教育論Ⅲ - 「指導としての教育」 (目標 2) 4. デューイの経験学習論 - 「ひとつの経験」、「経験と実験」 (目標 1,2) 5. デューイの知識学習論 - 「知識と情報」 (目標 1,2,3) 6. デューイの探究的思考論Ⅰ - 「探究過程論」 (目標 2) 7. デューイの探求的思考論Ⅱ - 「探究の二つの操作、二つの構成要素」 (目標 2) 8. デューイの探求的思考論Ⅲ - 「探究過程と情報知」 (目標 1,3) 9. デューイの教育方法論Ⅰ - 「教師の指導性」 (目標 2) 10. デューイの教育方法論Ⅱ - 「発問論」 (目標 2) 11. ドラマ教育の技法「ロールプレイ」 (目標 1,2,3) 12. ドラマ教育の技法「プレゼンテーション」 (目標 2) 13. ドラマ教育の技法「ディベート」 (目標 2) 14. ドラマ教育の技法「その他アクティビティ」 (目標 2) 15. 今日の学習論の考察 アクティブ・ラーニング (目標 1,2,3)					
成 績 評 価 基 準	評価の方法：①毎回の発言・質問20%、②プレゼンテーション内容80% 総合的に評価する 評価の基準：①知識・理解、思考・判断、②知識・理解、思考・判断、					
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション					
フィードバックの方法	テキストの解説とともに、考察についてコメントし合う。 授業改善方法について話し合う。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：次回のテキスト該当箇所を読む90分。 復習：ノート提出・点検90分。					
教材にかかわる 情 報	テキスト：デューイ著・松野安男訳『民主主義と教育(上)(下)』岩波文庫 参 考 書：森 昭著『経験主義の教育原理』金子書房 渡部淳著『アクティブ・ラーニングとは何か』岩波新書。 渡部淳著『学びを変えるドラマの手法』旬報社 他 参考資料等：					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ 等						
備 考						

授 業 科 目 名	教育心理学特論	教 員 名		免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	選 択
ナンバリングコード	UM6-0006-02200				幼 稚 園 教 諭	選 択
授 業 形 態	講義	年次配当	2年前期	修 了 要 件		必 修
単 位 数	2					
教科及び教職に 関する科目	幼稚園及び小学校					
授業のテーマ	子どもの学習、知能、パーソナリティ、批判的思考、教育相談、援助技法、障害児					
授 業 概 要	教育心理学の理論や研究成果に基づいて、種々の問題行動・学習意欲の低下・いじめ・学級崩壊・登園拒否・不登校など、幼稚園・小学校におけるさまざまな現代的教育課題と実際の対応法について考究する。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの学習や動機づけなどについて理解する。</li> <li>2. 子どもの知能やパーソナリティなどについて理解する。</li> <li>3. 教師との関係性や教師のリーダーシップについて理解する。</li> <li>4. 教育相談における援助技法について理解を深める。</li> <li>5. 子どもの問題行動や疾病への対応について理解を深める。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	①面接授業のみ					
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主体的学習・動機づけの心理学・批判的思考 (目標 1)</li> <li>2. 幼児期・学童期における知能の働き・創造性 (目標 2)</li> <li>3. 子どものパーソナリティと学校適応 (目標 2)</li> <li>4. 子どもの人間関係の発達 (目標 2)</li> <li>5. 教師と生徒との関係性 (目標 3)</li> <li>6. 教師のリーダーシップの問題 (目標 3)</li> <li>7. 教育相談と生徒指導、教育相談における倫理 (目標 4)</li> <li>8. 教育相談における言語技法—マイクロカウンセリング他 (目標 4)</li> <li>9. 教育相談における身体技法—プレイセラピー・筋弛緩法他 (目標 4)</li> <li>10. 教育相談におけるイメージ技法—夢分析他 (目標 4)</li> <li>11. 教育相談における表現技法—絵画療法・カラージュ療法・箱庭療法 (目標 4)</li> <li>12. 子どもの問題行動への理解と対応—自傷・乱暴・いじめ(いじめっ子の心理)・盗み (目標 5)</li> <li>13. 子どもの心身症への理解と対応—夜尿・過換気症候群・過敏性大腸症候群他 (目標 5)</li> <li>14. 情緒障害児の心理と対応—チック・吃音・心因性の登園拒否や不登校・緘黙 (目標 5)</li> <li>15. 発達障害児の心理と対応—自閉スペクトラム症・限局性学習症・注意欠如多動症 (目標 5)</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の方法：①レポート(70点) ②授業中の発言・取り組みの姿勢(30点) 総合的に評価する</p> <p>評価の基準：①知識、思考：教育心理学に関する専門的な事柄を理解し、自分の考えと共に説明できる。</p> <p>②知識、思考：教育心理学に関する専門的な事柄を理解し、自分の考えと共に説明できる。</p>					
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション					
フィードバックの方法	レポートについてコメントする。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	<p>予習：次回の授業のテーマについて、予め学習しておく。90分。</p> <p>復習：自分なりのまとめのノートを作る。90分。</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト：特になし。学会誌の論文など、必要な資料はそのつと配布する。</p> <p>参 考 書：授業のなかで適宜紹介する。</p> <p>参 考 資 料 等：授業のなかで適宜紹介する。</p>					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ 等						
備 考						

授 業 科 目 名	発達心理学特論	教 員 名	大田 紀子 (単独)	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	選 択
ナンバリングコード	UM5-0007-02200				幼 稚 園 教 諭	選 択
授 業 形 態	講義	年次配当	1 年前期	修 了 要 件		選 択
単 位 数	2					
教科及び教職に 関する科目	幼稚園及び小学校					
授 業 の テ ー マ	人間の発達・学習に関する原理や要因、各発達段階の諸特徴、今日的課題についての考察					
授 業 概 要	乳幼児期から青年期、高齢者までに及ぶ発達のメカニズムに関して、認知や学習の発達領域に重点を置き、発達心理学の観点から理解を深める。特に、学部段階での学問的知識に基づき、生理学的基礎論にも立脚した理論的な考察を中心に、現代的課題を取り上げながら論を進める。展開においては、諸外国の文献をも含めつつ、論理的・科学的に理解を深めるように心がける。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における人間の発達環境とその課題</li> <li>2. 今日的な発達課題の意義ととらえ方</li> <li>3. 子どもの発達と現代的課題</li> <li>4. 青年期の発達と現代的課題</li> <li>5. 成人期・社会における発達心理学的課題</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	学部段階での発達心理学の履修が望ましい。出席して積極的に参加すること。 授業方法①面接授業のみ					
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の発達の特徴と課題 (目標 1)</li> <li>2. 現代社会における人間の発達と環境の問題 (目標 1)</li> <li>3. 発達を促進する要因に関する現代的理解 (目標 2)</li> <li>4. 今日的発達課題の意義とその内容についての検討 (目標 2)</li> <li>5. 発達段階に関する認識と現代化への課題 (目標 2)</li> <li>6. 発達過程における個性化と社会化の意義 (目標 2)</li> <li>7. 人間発達における初期環境の理解と評価 (目標 2)</li> <li>8. 乳幼児期の発達と愛着研究の進展 (目標 3)</li> <li>9. 幼児期の自我発達のメカニズムと自己中心性 (目標 3)</li> <li>10. 児童期の発達と徒党時代のもたらす意味 (目標 3)</li> <li>11. 人間の思考の発達と情緒の統制との関係 (目標 4)</li> <li>12. 青年期への飛翔と現代社会の複雑・多様 (目標 4)</li> <li>13. 少子化時代の心理的離乳と脱衛星化の課題 (目標 4)</li> <li>14. 現代社会における発達障害の理解と実践的課題 (目標 5)</li> <li>15. 高齢化社会における生活の基盤と自己実現の課題 (目標 5)</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の方法：①課題・レポート (60%)、②ディスカッションやプレゼンテーション (40%) 総合的に評価する</p> <p>評価の基準：①知識、思考：発達心理学の観点から発達のメカニズムを理解し、自分の意見を述べることができる。</p> <p>②知識、思考：発達心理学の観点から発達のメカニズムを理解し、自分の意見を述べることができる。</p>					
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション					
フィードバックの方法	レポートについてコメントする。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	<p>予習：配布資料を一読し、課題に取り組む。90分</p> <p>復習：授業内容を整理し、ノートを作成する。90分。</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト：特になし、適宜資料を配付する。</p> <p>参 考 書：「実験で学ぶ発達心理学」 杉村伸一郎・坂田洋子編 ナカニシヤ出版</p> <p>参考資料等：都度、適宜資料を配布する。</p>					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ 等						
備 考						

授 業 科 目 名	発達臨床心理学演習	教 員 名	大田 紀子 (単独)	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	選 択
ナンバリングコード	UM5-0008-02200				幼 稚 園 教 諭	選 択
授 業 形 態	演習	年次配当	1年後期	修 了 要 件		選 択
単 位 数	2					
教科及び教職に 関する科目	幼稚園及び小学校					
授 業 の テ ー マ	現代社会における人間の適応の問題、各発達段階ごとの指導・支援のあり方、家庭・学校・地域の連携					
授 業 概 要	激変する現代生活で、ストレスや不安など、適応に困難を示す人間は多くなってきている。こうした問題に焦点を当て、その原理や要因などについて明らかにし、発達段階ごとに視点を設定して対応や方策について論考する。中でも、家庭・学校・地域など身近な場面で、子どもから高齢者・障害者の視点をも含めた生涯発達の観点に立ち、いじめ、不登校、虐待、孤立、適応障害等、臨床心理学的な人間理解の態度を修得することは重要なポイントになる。授業の展開においては、諸外国の文献なども含め、最新のデータ・資料に基づいて論究する。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代生活における適応の問題について理解する</li> <li>2. 各発達段階における臨床的視点について理解する。</li> <li>3. 学校における心理臨床的課題について理解する。</li> <li>4. 家庭・社会における心理臨床的問題について理解する。</li> <li>5. ストレス及びストレス対処について理解する。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	特になし。授業に出席して、主体的に参加すること。 授業方法①面接授業のみ					
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の発達理解と臨床的視点の意義 (目標 1)</li> <li>2. 発達臨床心理学的アプローチの立場と発達支援 (目標 1)</li> <li>3. 「孤立化社会」と「ストレス社会」の今日的課題 (目標 1)</li> <li>4. 現代社会における発達課題の再検討 (目標 2)</li> <li>5. 乳幼児期の親子関係と基本的信頼感に関する研究 (目標 2)</li> <li>6. 養育態度と欲求不満耐性に関する研究 (目標 4)</li> <li>7. 劣等感と自己効力感と適応に関する研究 (目標 4)</li> <li>8. 徒党時代と競争社会と仲間の関係に関する研究 (目標 3)</li> <li>9. 「いじめ」に関する心理臨床的検討 (目標 3)</li> <li>10. 「不登校」に関する心理臨床的検討 (目標 3)</li> <li>11. 「虐待」に関する心理臨床的検討 (目標 3)</li> <li>12. 「キレる・ムカつく」と対人関係能力の発達課題 (目標 4)</li> <li>13. 疾風怒濤の時代の適応と思春期の発達に関する研究 (目標 4)</li> <li>14. 現代社会における心理的ストレスに関する研究 (目標 5)</li> <li>15. ストレス対処とストレス・マネジメントに関する理解 (目標 5)</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の方法：①課題・レポート (50%) ②ディスカッションやプレゼンテーション (50%) 総合的に評価する</p> <p>評価の基準：①知識、思考：発達臨床的諸課題について、各発達段階における指導や支援のあり方を考察できているか。 ②知識、思考：発達臨床的諸課題について、各発達段階における指導や支援のあり方を考察できているか。</p>					
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション					
フィードバックの方法	レポートやプレゼンテーションにコメントをする。					
時 間 外 の 学 習 について	<p>予習：配布資料を一読し、課題に取り組む。90分。</p> <p>復習：授業内容を整理し、ノートを作成する。90分。</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト：特になし、適宜資料を配布する</p> <p>参 考 書：「原著で学ぶ社会性の発達」渡辺弥生・伊藤順子・杉村伸一郎編 ナカニシヤ出版</p> <p>参考資料等：都度、適宜資料を配布する。</p>					
担 当 者 からの メ ッ セ ー ジ 等						
備 考						



授業科目名	福祉・教育特論	教員名	佐藤 真澄 (単独)	免許・資格 との関係	小学校教諭	選択
ナンバリングコード	UM6-0011-02000				幼稚園教諭	
授業形態	講義	年次配当	2年後期	修了要件	選択	
単位数	2					
教科及び教職に関する科目	幼稚園					
授業のテーマ	社会福祉の思想、理念、制度 福祉教育					
授業概要	社会福祉の思想、理念や制度の変遷について体系的に学ぶ。子どもを取り巻く現状について取り上げ、社会福祉制度の課題や社会福祉実践の取り組みについて討議する。 また、子どもに教育するという立場から、「福祉とは何か」について討議する。					
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の思想、理念、制度の変遷について理解できる。</li> <li>2. 幼児・児童を取り巻く現状について、社会福祉の観点から理解できる。</li> <li>3. ライフステージに応じた社会福祉の課題や社会福祉実践の取り組みについて理解できる。</li> <li>4. 現代社会における福祉課題や求められる支援について、自分の考えを述べることができる。</li> <li>5. 福祉教育において大切にすべきことについて、自分の考えを述べるができる。</li> </ol>					
履修条件・注意事項	①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション「社会福祉」という考え方ー受講前の自分の考えを整理する (目標 4)</li> <li>2. 社会福祉の基礎概念① 社会福祉の基本理念 (目標 1)</li> <li>3. 社会福祉の基礎概念② ライフステージと社会福祉 (目標 1)</li> <li>4. 社会福祉の基礎概念③ 社会福祉の援助原理と専門性 (目標 1)</li> <li>5. 社会福祉の制度① 社会福祉制度の歴史的展開 (目標 1)</li> <li>6. 社会福祉の制度② 措置制度から契約制度への転換 (目標 1)</li> <li>7. 社会福祉の制度③ 社会福祉の仕組みと運営 (目標 1)</li> <li>8. 社会福祉を取り巻く状況① 少子・高齢化／家族機能と社会福祉との関係 (目標 2,3)</li> <li>9. 社会福祉を取り巻く状況② 地域社会の機能と地域福祉 (目標 2,3)</li> <li>10. 社会福祉を取り巻く状況③ 障害児(者)福祉と特別支援教育 (目標 2,3)</li> <li>11. 小括：現代社会における福祉課題と求められる支援のあり方 (目標 2,3,4)</li> <li>12. 【演習】子どもに「福祉」を教える - テーマ選定 (目標 5)</li> <li>13. 【演習】子どもに「福祉」を教える - 教材作成 (目標 5)</li> <li>14. 【演習】子どもに「福祉」を教える - プレゼンテーション (目標 5)</li> <li>15. 総括：福祉教育において大切にすべきこととは (目標 5)</li> </ol>					
成績評価基準	<p>評価の方法：①授業への参加度 50% ②演習課題 50% 総合的に評価する</p> <p>評価の基準：①知識理解、思考：社会福祉に関する基礎的な事柄について理解し、その内容を教材化し、説明できる。 ②知識理解、思考：社会福祉に関する基礎的な事柄について理解し、その内容を教材化し、説明できる。</p>					
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション					
フィードバックの方法	課題を与え、コメントをつけて返却する。					
時間外の学習について	<p>予習：事前配布した資料をよく読む。90分。</p> <p>復習：授業内容について資料をよく読む。90分</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト：特になし</p> <p>参考書：都度適宜紹介する。</p> <p>参考資料等：</p>					
担当者からのメッセージ等						
備考						

授業科目名	特別支援教育特論	教員名	松田 信夫 (単独)	免許・資格 との関係	小学校教諭	選択
ナンバリングコード	UM5-0013-02200				幼稚園教諭	選択
授業形態	講義	年次配当	1年後期	修了要件		選択
単位数	2					
教科及び教職に関する科目	幼稚園及び小学校					
授業のテーマ	特別支援教育、発達障害、学習面や行動面のアセスメントと支援					
授業概要	本科目では、特に通常の学校における特別支援教育に焦点を当て、その現状や最新の動向を理解するとともに、通常の学級にも在籍しているLDやADHD、高機能自閉症等の発達障害のある幼児児童生徒の特性と支援方法について学ぶ。その上で、具体的な事例を挙げ、幼児児童生徒を支援するために必要な情報を収集するとともに支援方法を検討し、他者と協議しながら個別の指導計画を作成する演習を行う。					
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 通常の学校における特別支援教育の現状や最新の動向について理解している。</li> <li>2. LDやADHD、高機能自閉症等の発達障害のある幼児児童生徒の特性と支援方法について理解している。</li> <li>3. 必要な情報を収集し、個別の指導計画を作成することができる。</li> <li>4. 他者との協議を通して、幼児児童生徒への支援を考えることができる。</li> </ol>					
履修条件・注意事項	①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション (目標 1)</li> <li>2. 通常の学校における特別支援教育 (目標 1)</li> <li>3. 事例検討① 情報収集と支援方法の検討 (目標 4)</li> <li>4. 発達障害のある幼児児童生徒の学習面の困難 (目標 2)</li> <li>5. 発達障害のある幼児児童生徒の学習面のアセスメント (目標 2)</li> <li>6. 発達障害のある幼児児童生徒の学習面の支援 (目標 2)</li> <li>7. 事例検討② 情報収集と支援方法の検討 (目標 4)</li> <li>8. 発達障害のある幼児児童生徒の行動面の困難 (目標 2)</li> <li>9. 発達障害のある幼児児童生徒の行動面のアセスメント (目標 2)</li> <li>10. 発達障害のある幼児児童生徒の行動面の支援 (目標 2)</li> <li>11. 個別の指導計画の意義と内容 (目標 3)</li> <li>12. 事例検討③ 情報収集と支援方法の検討、および個別の指導計画の作成 (目標 3,4)</li> <li>13. 事例検討④ 情報収集と支援方法の検討、および個別の指導計画の作成 (目標 3,4)</li> <li>14. 通常の学級における授業のユニバーサルデザイン (目標 1)</li> <li>15. インクルーシブ教育と合理的配慮 (目標 1)</li> </ol>					
成績評価基準	<p>評価の方法：①授業中に提示した課題の提出 (50点)、②授業中の態度・取り組み (50点) により総合的に評価する。</p> <p>評価の基準：①知識、思考：根拠を明確にして自説を述べ、かつその記述内容が適切である。</p> <p>②思考、態度：ディスカッションに積極的に参加し、多角的な学びを適切に整理する。</p>					
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション					
フィードバックの方法	課題を出し、コメントを口頭で伝える。					
時間外の学習について	<p>予習：資料を読んでおく。90分。</p> <p>復習：関連する参考書籍を読む。90分</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト：特に使用しない</p> <p>参考書：講義の中で、適宜、参考資料や補足資料を配布する。</p> <p>参考資料等：</p>					
担当者からのメッセージ等						
備考						

授 業 科 目 名	東アジア文化論	教 員 名	岡村 康夫 (単独)	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	
ナンバリングコード	UM5-0014-00000				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	講義	年次配当	1年後期	修了要件	選択	
単 位 数	2					
授業のテーマ	仏教、東アジアの文化および思想					
授 業 概 要	大乘仏教思想の東アジアにおける受容、展開およびその意義について考える。					
達 成 目 標	日本の文化・思想の起源を考察し、その文化・思想の現代における新たな展望を開く。					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	基本は講義形式ではあるが、授業中に受講者の発表・討論を取り入れる。 授業形態①面接授業のみ					
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 仏陀の教えについて</li> <li>2. 原始仏教について</li> <li>3. 大乘仏教のインドにおける発祥について</li> <li>4. 大乘仏教の中国への伝播について</li> <li>5. 大乘仏教の中国における受容について</li> <li>6. 日本への仏教伝播について</li> <li>7. 奈良時代の仏教について</li> <li>8. 平安時代の仏教について</li> <li>9. 鎌倉時代の日本仏教について(1)</li> <li>10. 鎌倉時代の日本仏教について(2)</li> <li>11. 鎌倉時代の日本仏教について(3)</li> <li>12. 室町時代以降の日本仏教の展開について</li> <li>13. 江戸時代の日本仏教について</li> <li>14. 明治以降の日本仏教について</li> <li>15. 現代における日本仏教について</li> </ol> レポート					
成績評価基準	<p>評価の方法：①最終レポート 50%、②授業中の発言・発表 50%、総合的に評価する</p> <p>評価の基準：①知識・理解、思考・判断、②知識・理解、思考・判断</p>					
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション					
フィードバックの方法	毎回の議論・ノートの内容について、次回の授業のなかで確認、議論、まとめを繰り返す。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：次回のテキスト該当箇所を読む (90分) 復習：資料確認およびノート整理、提出・点検 (90分)					
教材にかかわる 情 報	テキスト：特になし 参 考 書：長尾雅人著『仏教の源流』中公文庫、上田義文著『大乘仏教の思想』レクルス文庫 参考資料等：法然著『選択本願念仏集』岩波文庫、親鸞著『親鸞和讃集』岩波文庫					
担当者からの メ ッ セ ー ジ 等	大乘仏教思想を学ぶことを通して東洋文化の根底に流れるものを再確認して行きたいと思います。					
備 考						

授業科目名	幼児教育特論	教員名	松村 納央子 (単独)	免許・資格 との関係	小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UM5-0015-01000				幼稚園教諭	
授業形態	講義	年次配当	1年前期	修了要件	選択	
単位数	2					
教科及び教職に関する科目	幼稚園					
授業のテーマ	幼稚園教育を支える思想・原理、幼児教育の方法					
授業概要	幼児教育（幼稚園）の思想や理念、歴史に関する専門的な知識と方法を理解する。					
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育の専門的な知識及び理論、思想・理念・歴史を時代背景とともに関係的に理解する。</li> <li>2. 幼児教育現場での指導をする際の理論や技術を支える原理を理解する。</li> <li>3. 就学前教育施設におけるアプローチカリキュラム・小学校におけるスタートカリキュラムの具体例を検討考察する。</li> <li>4. 「環境を通して」、「体験を通して」、「生活を通して」などの幼児教育の原則を習得する。</li> </ol>					
履修条件・注意事項	①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コメニウス、ペスタロッチ、フレーベルの教育思想－「子ども」の内在的な力をどう捉えたか（目標 1, 2）</li> <li>2. フレーベル『人間の教育』（1826）にみる幼児教育の萌芽（目標 1, 2）</li> <li>3. フレーベルにおける自然（目標 1, 2）</li> <li>4. フレーベル『母の歌と愛撫の歌』（1844）の成立背景（目標 1, 2）</li> <li>5. フレーベル『母の歌と愛撫の歌』の読解(1) 執筆に至る経緯（目標 1, 2）</li> <li>6. フレーベル『母の歌と愛撫の歌』の読解(2) 図像の意義（目標 1, 2）</li> <li>7. フレーベル『母の歌と愛撫の歌』の読解(3) 歌（メロディ）の意義（目標 1, 2）</li> <li>8. フレーベルの「幼稚園」（目標 1, 2）</li> <li>9. フレーベルの「媒介学校」構想（目標 1, 2, 3）</li> <li>10. フレーベル幼稚園教育の受容形態(1) ヨーロッパを中心に（目標 1, 2, 3）</li> <li>11. フレーベル幼稚園教育の受容形態(2) 日本を中心に（目標 1, 2, 3）</li> <li>12. 現在世界的な影響をもつ就学前教育の形態Ⅰ－「レッジョ・エミリア」の概要（目標 2, 3, 4）</li> <li>13. 現在世界的な影響をもつ就学前教育の形態Ⅱ－「レッジョ・エミリア」のドキュメンテーション（目標 2, 3, 4）</li> <li>14. 現在世界的な影響をもつ就学前教育の形態Ⅲ－「レッジョ・エミリア」と生涯学習との関連（目標 2, 3, 4）</li> <li>15. これからの幼児教育の展望（目標 1, 2, 3, 4）</li> </ol>					
成績評価基準	<p>評価の方法：①講義での発表討論（30%）、②自主調査活動・レポート（70%） 総合的に評価する</p> <p>評価の基準：①知識理解、思考：幼児教育に関する専門的な事柄を理解し、自分の考えとともに説明できる。</p> <p>②知識理解、思考：幼児教育に関する専門的な事柄を理解し、自分の考えとともに説明できる。</p>					
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション					
フィードバックの方法	課題を回収後、コメントを付けて返却する。					
時間外の学習について	<p>予習：事前に提示した資料（史料）を読む。90分</p> <p>復習：発展的な課題について調査する。90分</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト：小笠原道雄『原典資料の解読によるフリードリヒ・フレーベルの研究』福村出版、2021 リナルディ、C.（里見実[訳]）『レッジョ・エミリアと対話しながら』ミネルヴァ書房、2019</p> <p>参考書：ロックシュタイン、M.（小笠原道雄[監訳]、木内陽一・松村納央子[訳]）『遊びが子どもを育てる－フレーベルの〈幼稚園〉と〈教育遊具〉』福村出版、2014</p> <p>参考資料等：適宜紹介する。</p>					
担当者からのメッセージ等	講義外での自主的な調査研究活動も進めてほしい。					
備考						

授 業 科 目 名	小学校授業実践特論	教 員 名	上 田 保 明 (単 独)	免 許 ・ 資 格 と の 関 係	小 学 校 教 諭	必 修
ナンバリングコード	UM5-0016-00100				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	講 義	年 次 配 当	1 年 後 期	修 了 要 件		選 択
単 位 数	2					
教科及び教職に関する科目	小学校					
授業のテーマ	学習規律、授業の理論と実践					
授 業 概 要	学習規律を理解し、授業の実践的指導力を修得する。					
達 成 目 標	1. 小学校の教育課程の特質と教師の役割について理解する。 2. 小学校における授業不成立の状況を踏まえ、学習規律の必要性について考える。 3. 幼小連携、スタートカリキュラムについて理解する。 4. 課題解決的な学習理論を構築する。					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	①面接授業のみ					
授 業 計 画	1. 小学校教育課程と教師の役割 (目標1) 2. 学級指導 (班編成、教師の話し方等)。 (目標23) 3. 学級指導 (登下校・安全指導、朝会・終会等の指導) (目標23) 4. 学級指導 (班活動、学習準備、授業始まり、日直、給食の指導等)。 (目標23) 5. 授業指導 (スタートカリキュラムの構想と実践)。 (目標23) 6. 学習規律① (教科書の音読、着席の仕方の指導)。 (目標234) 7. 学習規律② (一斉音読、発表の仕方、聞き方の指導)。 (目標234) 8. 学習規律③ (発表の仕方、授業から家庭学習へ)。 (目標234) 9. 騒がしい学級の様子 (目標2) 10. 課題解決型の学習指導 (目標4) 11. 優れた実践例 (目標4) 12. 小学校での実地指導 主として観察 (目標4) 13. 小学校での実地指導 主として授業 (目標4) 14. 反省と考察 (目標1234) 15. 全体のまとめ。 (目標1234)					
成 績 評 価 基 準	評価の方法：①講義での発表討論 (60%) ②レポート (40%) 総合的に評価する 評価の基準：①知識・理解、思考・判断、②知識・理解、思考・判断					
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク					
フィードバックの方法	発表の後のコメントを参考に、課題解決に取り組む。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：資料をよく読む。90分。 復習：発展的な課題について調べる。90分。					
教材にかかわる 情 報	テキスト：特になし 参 考 書：壺井栄『二十四の瞳』、安西祐一郎『問題解決の心理学』 参 考 資 料 等：					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ 等	課題解決型の学習指導論を構築しよう。					
備 考						

授 業 科 目 名	小学校授業実践特論演習	教 員 名	上田 保明 (単独)	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	選択
ナンバリングコード	UM6-0017-00200				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	演習	年次配当	2年前期	修 了 要 件		選択
単 位 数	2					
教科及び教職に 関する科目	小学校					
授業のテーマ	アクティブラーニング、授業の理論と実践					
授 業 概 要	アクティブラーニングの本質を理解し、授業の実践的指導力を修得する。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アクティブラーニングの理論と特質について理解する。</li> <li>2. 教材解釈、深い学びのあり方について考える。</li> <li>3. 対話的な学びのあり方について実践的に考える。</li> <li>4. 小学生児童を対象とした実地授業を行うことで、実践的指導力を修得する。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	①面接授業のみ					
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アクティブラーニングの背景 (目標1)</li> <li>2. アクティブラーニングの特質 (目標1)</li> <li>3. 教材「ごんぎつね」(目標23)</li> <li>4. 教材「たんぼぼの ちえ」(目標23)</li> <li>5. 教材「走れメロス」(目標23)</li> <li>6. 道徳「友達」(目標23)</li> <li>7. 道徳「規則」</li> <li>8. 指導案の作成</li> <li>9. 模擬授業 国語</li> <li>10. 模擬授業 道徳</li> <li>11. 小学校における実地指導 国語、(目標4)</li> <li>12. 小学校における実地指導 道徳、(目標4)</li> <li>13. 分析、考察 (目標1234)</li> <li>14. アクティブラーニングの課題 (目標1234)</li> <li>15. まとめ (目標1234)</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の方法：①演習活動での討論 (60%)、②ノート活動 (40%) 総合的に評価する</p> <p>評価の基準：①知識・理解、思考・判断、 ②知識・理解、思考・判断</p>					
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク					
フィードバックの方法	発表に後のコメントを参考に、課題解決に取り組むこと					
時 間 外 の 学 習 について	<p>予習：資料をよく読む。90分。</p> <p>復習：発展的な課題について調べる。90分。</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト：特になし</p> <p>参 考 書：安西祐一郎『問題解決の心理学』</p> <p>参考資料等：</p>					
担当者からの メ ッ セ ー ジ 等	児童が主体的、対話的で深い学びのある授業実践に取り組んでほしい。					
備 考						

授 業 科 目 名	表現活動指導演習	教 員 名	本廣 明美 (単独)	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	選 択
ナンバリングコード	UM6-0018-00200				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	演習	年次配当	2年前期	修 了 要 件	選 択	
単 位 数	2					
教科及び教職に 関する科目	幼稚園及び小学校					
授業のテーマ	音楽構成要素分析、言語と音楽の関係性、表現領域と鑑賞領域、					
授 業 概 要	幼児歌曲・小学校音楽科教材の楽曲を、音楽的側面と言語的側面から分析し、楽曲のもつ特徴を把握する。教育者としての表現力を養うと共に、子どもの発達を考慮しながら、表現活動の場で実践できる方法や、表現・鑑賞領域の活動への展開方法について研究する。具体的には曲からのイメージに言語表現を行い、絵本や物語の場面ごとのイメージを音楽で表現する。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音楽教材を音楽的側面、言語的側面から歌唱教材を分析する力量を身につける。</li> <li>2. 音楽構成要素から楽曲の特徴を捉えイメージを膨らませ、それにふさわしい言語表現を考えることができる。</li> <li>3. 言語と音楽の関係性を見出し、イメージに合わせた音楽表現力を身につける。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	授業方法①面接のみ					
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、楽曲を構成する要素を分析する意義について。 幼児歌曲・小学校音楽科教材を拍子、速度の側面から分析し表現する。(目標 1,2)</li> <li>2. 幼児歌曲・小学校音楽科教材をリズムの側面から分析し表現する。(目標 1,2)</li> <li>3. 幼児歌曲・小学校音楽科教材をメロディーの側面から分析し表現する。(目標 1,2)</li> <li>4. 幼児歌曲・小学校音楽科教材を形式等の側面から分析し表現する。(目標 1,2)</li> <li>5. 幼児歌曲・小学校音楽科教材を歌詞の側面から分析し表現する。(目標 1,2)</li> <li>6. イメージ・ペイント(イメージ形成と音楽基礎構成要素との関係について)(目標3)</li> <li>7. イメージ・ペイントの実践(タイトルや音楽3要素からのイメージ付け)(目標3)</li> <li>8. 効果音と効果音楽の知識(器楽)(目標3)</li> <li>9. 効果音と効果音楽の実際(音楽づくり)(目標3)</li> <li>10. テーマソング創作(音楽づくり)(目標2,3)</li> <li>11. 絵本の効果音付けにおけるイメージ形成(器楽)(目標 2,3)</li> <li>12. 絵本の効果音楽付けと実践(鑑賞領域)(目標 2,3)</li> <li>13. 絵本への音楽付け表現研究(音楽基礎構成要素とイメージの結びつき)(目標 1,2,3)</li> <li>14. 総合表現の実践(目標 1,2,3)</li> <li>15. 作品発表と整理(目標 1,2,3)</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の方法：①授業中の取り組み(20点)②イメージ付け(配点30%)③作品の成果(配点50%)により総合的に評価する</p> <p>評価の基準：①関心・意欲：意欲を持って、授業に臨むことができたか。②思考・表現：音楽と言語表現の関係性を考えることができたか。③知識・技能・思考・表現：総合的な音楽表現力を身につけることができたか。</p>					
アクティブラーニング	プレゼンテーション					
フィードバックの方法	課題に対してコメントをつける。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	<p>予習：次回の授業のテーマについて考えをまとめたり、創作したりする。90分</p> <p>復習：毎時間の演習内容を振り返り課題を持つ。90分</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト：共著：本廣明美 加藤照恵 『保育の現場で聴かせたい ピアノ名曲でこどもと遊ぼう』(ドレミ楽譜出版社)、 『最新 初等科音楽教育法』(音楽之友社)、『小学生の音楽(1年～6年)』(教育芸術社) 『こどもとたのしく「弾き歌い」幼稚園・保育園のうた ピアノ伴奏曲集』(ドレミ楽譜出版社) 適宜プリントを配布 参考書：『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編』</p>					
担当者からの メ ッ セ ー ジ 等	保育現場や教育現場の表現活動に日頃から触れる機会があれば、進んで参加してください。					
備 考						

授業科目名	歌唱表現特別演習	教員名	坂本久美子 (単独)	免許・資格 との関係	小学校教諭	選択
ナンバリングコード	UM5-0019-02000				幼稚園教諭	
授業形態	演習	年次配当	1年後期	修了要件	選択	
単位数	2					
教科及び教職に関する科目	領域に関する専門的事項(幼稚園)					
授業のテーマ	発声、歌い方、日本語の発音、イメージ、教材研究					
授業概要	様々な歌唱教材について、文献をもとにその曲が生まれた時代背景や文化的側面を知り、言葉や音楽の分析を通してその曲への理解を深める。また、それらの歌唱活動を通して、個人の歌唱力の向上を目指すとともに、教育・保育現場での活用法について考える。					
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 時代背景や文化的に成り立ちの異なる、幅広い歌唱教材を知る。</li> <li>2. 歌唱教材の特徴を、言葉や音楽の面から捉える。</li> <li>3. 歌の特色を活かす発声や歌唱表現を考える。</li> <li>4. 保育・教育現場での歌唱教材の活用法を知る。</li> </ol>					
履修条件・注意事項	①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歌唱における自己課題の分析 (目標 3)</li> <li>2. 基礎的な発声法 (目標 3)</li> <li>3. 唱歌に関する研究 (目標 1,4)</li> <li>4. 唱歌の歌唱実践(日本語の発音と歌唱法) (目標 2,3)</li> <li>5. 童謡に関する研究 (目標 1,4)</li> <li>6. 童謡の歌唱実践(郷土の詩人の詩による子どもの歌) (目標 2,3)</li> <li>7. 日本の歌に関する研究 (目標 1,2)</li> <li>8. 世界の歌に関する研究 (目標 1,2)</li> <li>9. 歌唱と身体表現に関する研究 (目標 1,3)</li> <li>10. 音楽物語の創作:構成 (目標 2,4)</li> <li>11. 音楽物語の創作:選曲 (目標 1,2)</li> <li>12. 音楽物語の創作:朗読 (目標 3)</li> <li>13. 音楽物語の創作:場面と歌唱表現 (目標 2,3)</li> <li>14. 音楽物語の創作:心情と歌唱表現 (目標 2,3)</li> <li>15. 音楽物語の発表とレポート作成 (目標 2,3)</li> </ol>					
成績評価基準	<p>評価の方法:①歌唱(60%)、②レポート(20%)、③授業への取り組み(20%)を総合的に評価する。</p> <p>評価の基準:①技能・表現:それぞれの歌唱教材に応じた、自分なりの歌唱表現ができる。</p> <p>②知識・理解、思考・判断:幅広い分野の歌唱教材について理解し、保育への活かし方を自分なりに考える。</p> <p>③関心・意欲、態度:歌唱について自己課題を見出し、積極的に取り組む。</p>					
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、					
フィードバックの方法	歌唱の発表後、講評を行う。					
時間外の学習について	<p>予習:様々な分野の歌について関心を持ち、調べたり歌ったりしておく 90分。</p> <p>復習:既習の歌は歌えるようにしておく 90分。</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト:特になし</p> <p>参考書:適宜プリント配布</p> <p>参考資料等:バーバラ・コナブル著 『音楽家なら誰でも知っておきたい呼吸のこと』 (誠信書房)</p> <p>服部公一著 『歌ではじまる幼児教育』 (チャイルド本社)</p>					
担当者からのメッセージ等	日頃からジャンルを問わず歌に興味を持ち、積極的に歌うことを心掛けてほしいです。					
備考						



授業科目名	歌唱文化特別研究	教員名	坂本久美子 (単独)	免許・資格 との関係	小学校教諭	選択
ナンバリングコード	UM6-0020-00200				幼稚園教諭	
授業形態	演習	年次配当	2年前期	修了要件	選択	
単位数	2					
教科及び教職に関する科目	教科に関する専門的事項(小学校)					
授業のテーマ	世界の歌唱、発声法、歌唱、鑑賞、教材研究					
授業概要	幼児教育から小学校教育への接続の観点から、子ども達が幼児期に親しんできたあそびうたに着目し、日本や世界のあそびうたの実践から、音楽を通して異文化への理解を深める。また、小学校音楽科で取り上げられている歌を中心に、世界の様々な地域や分野の歌唱を取り上げ、その歌唱が成立してきた歴史的・文化的背景から、発声法の多様性や声の魅力を発見し、音楽科の歌唱指導や鑑賞の教材研究等、授業展開の構想に取り入れる視点を獲得する。					
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本や世界のあそびうたを通して、音楽の特徴や遊びの形態から異文化理解を深める。</li> <li>2. 世界の様々な歌唱から、その文化的背景や歌声の多様性を知る。</li> <li>3. 世界の多様な歌について、小学校での歌唱や鑑賞の指導のための教材研究や、授業の展開に活かす視点を獲得する。</li> </ol>					
履修条件・注意事項	①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスと自己の歌唱経験の振り返り (目標 1,2,3)</li> <li>2. 日本のあそびうた(わらべうた)の実践と音楽の特徴 (目標 1,2,3)</li> <li>3. 外国のあそびうたの実践と文化的考察 (目標 1,2,3)</li> <li>4. 日本の国歌 (目標 1,2,3)</li> <li>5. 世界の国歌 (目標 1,2,3)</li> <li>6. 地声と裏声【ヨーデル・ブルガリアンヴォイス・ホーミー】 (目標 1,2,3)</li> <li>7. 宗教と歌唱【ゴスペル・声明】 (目標 1,2,3)</li> <li>8. 劇と歌唱(1)【オペラ・オペレッタ・ミュージカル】 (目標 1,2,3)</li> <li>9. 劇と歌唱(2)【歌舞伎・京劇・ケチャ】 (目標 1,2,3)</li> <li>10. 踊りと歌唱【フラメンコ・能】 (目標 1,2,3)</li> <li>11. 民謡における拍子やリズム (目標 1,2,3)</li> <li>12. 教材研究(歌唱指導) (目標 1,2,3)</li> <li>13. 指導のねらいと展開方法のプレゼンテーション (目標 1,2,3)</li> <li>14. 教材研究(鑑賞指導) (目標 1,2,3)</li> <li>15. 指導のねらいと展開方法のプレゼンテーション (目標 1,2,3)</li> </ol>					
成績評価基準	<p>評価の方法：①プレゼンテーション(60%) ②レポート(20%) ③授業への取り組み(20%)を総合的に評価する。</p> <p>評価の基準：①知識・理解：世界の歌唱文化について基礎的な知識を持ち、教材研究に活かせる。</p> <p>②思考・判断：様々な歌を通して、異文化理解の視点を持つ。</p> <p>③関心・意欲・態度：歌唱活動に関心をもち、積極的に授業に取り組む。</p>					
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション					
フィードバックの方法	プレゼンテーション後、講評を行う。					
時間外の学習について	<p>予習：世界の様々な音楽に関心をもち、授業計画に沿って調べたり聴いたりしておく。90分。</p> <p>復習：各回の講義や演習内容を整理し、参考資料等を読み理解を深める。90分。</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト：特になし。</p> <p>参考書：適宜紹介する。</p> <p>参考資料等：小泉文夫著『音楽の根源にあるもの』(平凡社)</p> <p>小泉文夫著『子どもの遊びとうた』(草思社)</p> <p>原良枝著『声の文化史』(成文堂)</p>					
担当者からのメッセージ等	講義だけでなく、可能な限り自身の声で実践しながら進めます。					
備考						

授 業 科 目 名	鍵盤表現特別演習	教 員 名	本廣 明美 (単独)	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	選択
ナンバリングコード	UM5-0021-02000				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	演習	年次配当	1 年前期	修 了 要 件	選択	
単 位 数	2					
教科及び教職に 関する科目	幼稚園					
授業のテーマ	ピアノ演奏、イメージの形成、自己表現力					
授 業 概 要	鍵盤表現についての幅広い知識や奏法及び表現法を学ぶ。ピアノ曲と演奏法について、「音高」「速さ」「強弱」「リズム」「奏法」などに視点を持ち、イメージの形成と表現の関係性を分析し考究する。 そしてそれらを、対象である子どもの成長発達を踏まえ、興味・関心を持たせたいピアノ曲の演奏や表現に生かすことで、ピアノの技術と豊かな表現力の向上を目指す。					
達 成 目 標	1. 鍵盤表現についての幅広い知識や奏法を知る。 2. ピアノ曲の歴史を理解する 3. イメージの形成と表現の関係性を理解する。 4. 豊かなピアノの演奏技術を習得する。					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	①面接授業のみ					
授 業 計 画	1. ピアノ表現の知識と奏法 (目標 1) 2. ピアノ曲の歴史 (作曲家と作品 ロマン派以前) (目標 1,2) 3. ピアノ曲の歴史 (作曲家と作品 近・現代) (目標 1,2) 4. さまざまな様式におけるピアノ表現 (目標 1,2) 5. さまざまな形式におけるピアノ表現 (目標 1,2) 6. ジャンル別におけるピアノ表現 (目標 1,2) 7. イメージの弁別法とイメージの形成の仕方 (目標 3) 8. イメージと鍵盤表現との関連 (目標 3) 9. ピアノ曲と鍵盤表現 (動きを表わす曲) (目標 3,4) 10. ピアノ曲と鍵盤表現 (動物・乗り物等を表わす曲) (目標 3,4) 11. ピアノ曲と鍵盤表現 (感情を表わす曲) (目標 3,4) 12. ピアノ曲と鍵盤表現 (情景描写を表わす曲) (目標 3,4) 13. ピアノ曲と鍵盤表現 (四季を表わす曲) (目標 3,4) 14. ピアノ演奏と曲のプレゼンテーションの練習 (目標 1,2,3,4,) 15. ピアノ演奏発表と曲のプレゼンテーション (目標 1,2,3,4)					
成 績 評 価 基 準	評価の方法：①ピアノ演奏 (60%)、②曲のプレゼンテーション (20%) ③授業への取り組み (20%) により総合的に評価する 評価の基準：①知識・技能：達成目標の基本的な事柄を理解し、自ら演奏技能を高め習得することができる。 ②思考・判断・表現：曲自体のもつ特徴や曲の背景を知り、自らその曲にふさわしい表現技術や表現力を高め習得することができる。 ③関心・意欲：自主的に意欲を持って学習することができる。					
アクティブラーニング	プレゼンテーション、グループワーク					
フィードバックの方法	発表の後のコメントを参考に、問題解決に取り組むこと。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：授業で学習するピアノ曲について調べ、練習をする。90分。 復習：ピアノ練習をする。さらに発展的な課題について調べる。90分。					
教材にかかわる 情 報	テキスト：共著：本廣明美 加藤照恵 「保育の現場で聴かせたい ピアノ名曲でこどもと遊ぼう」 (ドレミ楽譜出版社)、適宜プリントを配布 参考書： 参考資料等：					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ 等	弾く練習だけでなく、その曲の背景や作曲者の思いなども、自主的に文献研究することで、演奏能力を高めてほしい。					
備 考						

授 業 科 目 名	造形表現特別演習	教 員 名	武田 雅行 (単独)	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	選 択
ナンバリングコード	UM6-0022-00200				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	演 習	年次配当	2年前期	修 了 要 件	選 択	
単 位 数	2					
教科及び教職に 関する科目	小学校					
授業のテーマ	出身県内美術工芸品、児童・学校・地域等の実態をもとにした題材開発、					
授 業 概 要	題材開発のための調査・研究とそれに基づく試作や指導計画・指導案作成と研究成果の発表					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 美術工芸品や児童作品の色彩や形、構成など芸術表現・造形表現について調査・分析できる。</li> <li>2. 児童・学校・地域性等の実態をもとにオリジナル題材を開発することができる。</li> <li>3. 開発題材にかかわる指導計画や指導案等を考案することができる。</li> <li>4. 自己課題をもとに一連の調査・研究の成果をまとめ、発表することができる。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	授業方法①面接のみ					
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業説明をもとにした自己課題の設定 (目標 1)</li> <li>2. 自己課題に基づく研究計画の立案 (目標 1)</li> <li>3. 実態調査 1 (出身県の美術工芸品・民芸品等の調査・分析とまとめ) (目標 1)</li> <li>4. 実態調査 2 (山口県内の小学校児童の造形作品の調査・分析とまとめ) (目標 1)</li> <li>5. 調査結果に基づく題材開発 1 (構想) (目標 2)</li> <li>6. 調査結果に基づく題材開発 2 (試作) (目標 2)</li> <li>7. 試作品の検討とまとめ (目標 2)</li> <li>8. 開発題材にかかわる指導計画立案 (目標 3)</li> <li>9. 開発題材にかかわる指導案作成 (目標 3)</li> <li>10. 調査研究の成果のまとめ 1 (開発題材にかかる制作物のまとめ) (目標 3)</li> <li>11. 調査研究の成果のまとめ 2 (開発題材にかかる文書のまとめ) (目標 3)</li> <li>12. 研究成果の発表準備 1 (パネル表示) (目標 4)</li> <li>13. 研究成果の発表準備 2 (試作品等モデルの制作) (目標 4)</li> <li>14. 研究成果の発表 (目標 4)</li> <li>15. 研究成果のまとめと評価 (目標 4)</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の方法：①発表内容 50%、②制作パネル、試作品・指導案 30%、③授業中の取組 20% 総合的に評価する</p> <p>評価の基準：①知識、思考、表現：児童・学校・地域の実態に基づき、新たな題材を開発することができる。 ②知識、思考、表現：児童・学校・地域の実態に基づき、新たな題材を開発することができる。 ③研究意欲・態度</p>					
アクティブラーニング	プレゼンテーション、グループワーク					
フィードバックの方法	研究テーマ、調査方法・発表内容をはじめ、制作パネル、試作品、指導案等、その都度指導助言を行う。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	<p>予習：自己課題に基づく次時内容の確認と構想、資料や材料・用具の確認と準備 90 分。</p> <p>復習：受講内容のまとめと資料の整理、未完成箇所の補完 90 分。</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト：収集資料と自作資料、県内の美術品・伝統工芸品等に係わる資料 「色・イメージ・構成」寺門保夫・田口敦子・阿部隆夫(技術シリーズ別冊アトリエ)</p> <p>参 考 書： 参考資料等：適宜紹介する。</p>					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ 等	題材開発のための手順・方法がわかり、オリジナル題材の開発能力を身につけることができる。					
備 考						

授業科目名	わらべうたの研究	教員名	坂本 久美子 (単独)	免許・資格 との関係	小学校教諭	選択
ナンバリングコード	UM6-0023-02000				幼稚園教諭	
授業形態	演習	年次配当	2年後期	修了要件	選択	
単位数	2					
教科及び教職に関する科目	幼稚園					
授業のテーマ	伝承、伝播、うたあそび、ことば、地域性、わらべうたの種類、教材化					
授業概要	わらべうたについて、講義・文献研究、及び演習を通して学ぶ。子どもの生活とわらべうた遊び、また子どもの発達との関連について、より多くのわらべうたに接しながら、保育・教育的意義の側面からわらべうたあそびを捉える。					
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. わらべうたの伝承・伝播の特徴を事例により理解する。</li> <li>2. わらべうたを音楽と言葉の側面から分析することで地域性・時代性について考察する。</li> <li>3. 子どもの発達とわらべうたの遊び性の関連について考える。</li> <li>4. 日本伝統音楽の音組織によることを理解する。</li> <li>5. わらべうたの教材化について考える。</li> </ol>					
履修条件・注意事項	活動できる服装、靴で履修すること。 授業方法①面接のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概要と特徴 わらべうたの成立、わらべうたの要素 (目標 1)</li> <li>2. 伝承について, うた・ことば・あそびを比較 (目標 1,2)</li> <li>3. 伝播について1, うた・ことば・あそびを比較 (目標 1,2)</li> <li>4. 伝播について2, 事例を比較研究し地域性について考える (目標 1,2)</li> <li>5. わらべうたあそびと子どもの発達1 あそばせうた (目標 3)</li> <li>6. わらべうたあそびと子どもの発達2 あそびうた (目標 3)</li> <li>7. わらべうたあそびと子どもの発達3 (感覚器官・運動能力・手行為) (目標 3)</li> <li>8. わらべうたあそびと子どもの発達4 (言語能力・音楽能力・社会性) (目標 3)</li> <li>9. 音楽的特徴1, 拍・リズム (目標 4)</li> <li>10. 海外の伝承あそびと教育の関わり (目標 4,5)</li> <li>11. 日本の伝承あそびの教育的意義 (目標 4,5)</li> <li>12. わらべうたの教材化について (目標 4,5)</li> <li>13. わらべうたの教材化演習1, 指導計画 (目標 4,5)</li> <li>14. わらべうたの教材化演習2, 模擬実践 (目標 4,5)</li> <li>15. わらべうたについてのまとめ</li> </ol>					
成績評価基準	<p>評価の方法：①課題の発表 (70%)、②授業への取り組みの姿勢 (30%) を総合的に評価する。</p> <p>評価の基準：①知識・理解、思考・判断：わらべうたのもつ教材としての意義を理解し、教育・保育の場で活かす具体的な方法を考えることができる。</p> <p>②関心・意欲、態度：演習を通して学ぶ意欲を持ち、積極的に授業に取り組む。</p>					
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク					
フィードバックの方法	実演にコメントする。					
時間外の学習について	<p>予習：資料を調べ、プレゼンが出来るようにする。90分。</p> <p>復習：うたの練習を重ねて習得する、発展的課題について調べる。90分。</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト：適宜プリント配布</p> <p>参考書：『わらべうたによる音楽教育』本間雅夫/鈴木敏朗 (自由現代社)</p> <p>『近世童謡童遊集』尾原昭夫、</p> <p>『新訂わらべうたであそぼう』(年少・年中・年長編) (コダワイ芸術教育研究著)、</p> <p>参考資料等：『わらべうたの研究』小泉文夫編 (わらべうたの研究刊行会)</p>					
担当者からのメッセージ等	演習を伴うので、動くことができる服装と靴で授業に参加してください。					
備考						

授 業 科 目 名	郷土の美術研究	教 員 名	武田 雅行 (単独)	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	選択
ナンバリングコード	UM6-0024-02000				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	演習	年次配当	2年後期	修 了 要 件	選択	
単 位 数	2					
教科及び教職に 関する科目	幼稚園					
授業のテーマ	鑑賞、地域文化、郷土の美術、美術教育、調査、研究、技法、工作					
授 業 概 要	調査・研究に当たっては、事前学習の後、地域の美術館や博物館に収蔵されている各ジャンルの優れた美術作品を鑑賞する機会を通じて、各種資料や情報の収集を行い、その考察の成果を含めて研究ファイルとしてまとめる。また、造形表現に欠かせない要素である色彩・形・構成の重要性に常に立ち返り、美術分野における地域文化の専門的知識を身につけた上で、子どもと心を通わせる美術的側面からの「おもちゃ作り」や「絵手紙作成」の演習等も行い、美術と子どもとの関わりや、造形表現が地域や家庭、教育現場でどのように活かせるかを考察する。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 代表的郷土の美術作家について説明できる。</li> <li>2. 優れた作品を生み出す作家の生き様を通して感性を育むことの大切さに気づく。</li> <li>3. 色彩や形などの芸術表現・技法について分析できる。</li> <li>4. 研究や考察の経験を通して自らの教育実践に応用できる。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	①面接のみ					
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入 山口県美術・授業計画提示 (目標 1,2)</li> <li>2. 山口県の日本画 文献・スライド・ビデオ等による事前学習 (目標 1,2)</li> <li>3. 毛利博物館見学 (目標 1,2,3)</li> <li>4. 雪舟および雲谷派の作家 (目標 1,2)</li> <li>5. 研究ファイル作成 資料の収集と考察 (目標 1,2,3)</li> <li>6. 山口県の洋画・彫刻 文献等による事前学習 (目標 1,2)</li> <li>7. 山口県立美術館見学 (目標 1,2,3)</li> <li>8. 香月美術館見学 (目標 1,2,3)</li> <li>9. 研究ファイル作成 資料の収集と考察 (目標 1,2,3)</li> <li>10. 山口県の工芸 文献等による事前学習 (目標 1,2)</li> <li>11. 萩浦上記念館見学 (目標 1,2,3)</li> <li>12. 工作 ①身近な廃材を使用してのおもちゃ制作 (目標 4)</li> <li>13. 工作 ②前回の続き (目標 4)</li> <li>14. 絵手紙制作 (目標 4)</li> <li>15. 研究ファイル作成 資料の収集と考察及びまとめ (目標 1,2,3,4)</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の方法：①研究ファイル及び作品提出 (50%)。②試験 (30%)。③授業への取り組み (20%)。総合的に評価する</p> <p>評価の基準：①知識理解、思考表現：郷土の美術や作家について理解し、説明できる。 ②知識理解、思考表現：郷土の美術や作家について理解し、説明できる。 ③関心、態度</p>					
アクティブラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション					
フィードバックの方法	作成した研究ファイルを基に口頭発表することで、考察や知識を自分のものとする。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	<p>予習：資料をよく読むこと。90分。</p> <p>復習：課題について調べること。90分。</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト：特になし</p> <p>参 考 書：「山口県の美術」編集：榎本徹 監修：河野良輔（思文閣出版）郷土史「防長の美術と文化」全2巻（学研）「香月泰男展図録」編集：山口県立美術館（艸藝社）ほか</p> <p>参考資料等：</p>					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ 等	学外に出て、実物に触れる機会を多くもつので、集合時間等厳守すること。					
備 考	学外的美術館見学については内容により予定を変更する場合がある。					

授 業 科 目 名	第二言語習得研究	教 員 名	二五 義博 (単独)	免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	選 択
ナンバリングコード	UM5-0025-00200				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	演 習	年次配当	1 年前期	修 了 要 件		選 択
単 位 数	2					
教科及び教職に 関する科目	小学校					
授業のテーマ	子どもの言語習得、気づき、理解、内在化、統合、インタラクション、意味交渉					
授 業 概 要	第二言語習得における認知プロセス（気づき、理解、内在化、統合）、インタラクション、意味交渉に焦点を当て、当該分野における最新の研究動向を理解し、その研究成果を子どもに英語を指導する際にどのように応用するかについて検討する。授業は発表と発表内容に基づいた話し合いを中心に行う。他者と協力しながら子どもの中間言語の発達を促す授業活動を立案する演習を行う。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第二言語習得研究の2つのアプローチについて説明することができる。</li> <li>2. 第二言語習得研究の研究動向について理解している。</li> <li>3. 第二言語習得のプロセスについて説明することができる。</li> <li>4. 第二言語習得研究の研究成果を考慮した授業活動を立案することができる。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	受講前にLTD (Learning through Discussion) に関連する資料に目を通しておくことが望ましい。 授業方法①面接のみ					
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション (目標 1)</li> <li>2. 学問分野としての第二言語習得研究 (目標 1,2)</li> <li>3. 第二言語習得のプロセス (目標 3)</li> <li>4. 気づき仮説 (目標 2)</li> <li>5. インプット仮説 (目標 2)</li> <li>6. アウトプット仮説 (目標 2)</li> <li>7. インタラクション仮説 (目標 2)</li> <li>8. 内容言語統合型 (CLIL) 学習 (目標 2)</li> <li>9. 多重知能(MI)理論 (目標 2)</li> <li>10. 音韻レベルの処理の自動化を促す授業活動 (目標 4)</li> <li>11. 意味交渉を伴う授業活動 (目標 4)</li> <li>12. 認知比較 (Cognitive Comparison) を引き起こす授業活動 (目標 4)</li> <li>13. アウトプットの指導 (目標 4)</li> <li>14. コミュニケーション方略の指導 (目標 4)</li> <li>15. コミュニケーション活動の重要性 (目標 1,2,3,4)</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の方法:①ディスカッション、プレゼンテーションなど授業への貢献(40%)、②小テスト(20%)、③レポート(40%)により総合的に評価する。</p> <p>評価の基準:①関心・意欲:ディスカッション、プレゼンテーション等の授業内の活動に積極的に取り組んでいる。 ②知識・理解:第二言語習得のメカニズムや英語教育学の理論について理解し、その知識を説明できる。 ③思考・判断:授業で扱ったテーマについてさらに深め、自分の意見を述べるができる。</p>					
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション					
フィードバックの方法	レポート等は授業担当者のコメントを添えて返却します。					
時 間 外 の 学 習 について	<p>予習:学習課題を読み予習ノートを作成しておくこと。90分</p> <p>復習:授業内で授業後の課題が指示されます。復習は他の受講生との協働作業になります。90分</p>					
教材にかかわる 情 報	学術誌等で公開されている論文を配布する。配付資料の30%程度は英語の論文を使用する。					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ 等	第二言語習得研究や英語教育学に関する論文(英語のものを含む)を多く読み、様々な研究成果に基づく授業の立案ができるようになりましょう。					
備 考						

授業科目名	教育情報科学特論	教員名	三池 秀敏 (単独)	免許・資格 との関係	小学校教諭	
ナンバリングコード	UM5-0026-00000				幼稚園教諭	
授業形態	講義	年次担当	1年前期	修了要件	選択	
単位数	2					
授業のテーマ	教育技術、情報科学、脳科学、データサイエンス、ニューラルネットワーク、視覚心理、AI（人工知能）					
授業概要	教育現場で必要な情報処理理論・技術の基本を確認するとともに、データ活用能力の向上のためのデータサイエンスや人工知能（AI）、更には最先端の脳科学（視覚心理、意識を含む）や3DCG（3次元コンピュータグラフィックス）についても学び、情報科学技術を教育現場や社会で活用するための方策を探求する。					
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育技術としての情報処理理論・技術を再確認する。</li> <li>2. データ活用能力の向上のため、データサイエンスやAIの基本を学び、データ処理の実践課題を解決する。</li> <li>3. 最先端の脳科学や3DCG技術を学び、情報科学技術を活用する方策を理解し発案する。</li> </ol>					
履修条件・注意事項	①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義内容の説明及び情報科学基礎論Ⅰ（2進・10進・16進変換、論理演算）（目標1）</li> <li>2. 情報科学基礎論Ⅱ（情報量と情報エントロピー）＋調査課題Ⅰ（目標1）</li> <li>3. 情報科学基礎論Ⅲ（データの生成、処理・分析：平均・分散・ヒストグラム）＋調査課題Ⅱ（目標1,2）</li> <li>4. 情報科学基礎論Ⅳ（時系列データ処理：スペクトル解析）＋調査課題Ⅲ（目標1,2）</li> <li>5. 画像データ（2次元）の処理Ⅰ（画像強調・二値化）＋調査課題Ⅳ（目標2）</li> <li>6. 画像データ（2次元）の処理Ⅱ（フィルタリング）＋調査課題Ⅴ（目標2）</li> <li>7. 動画データ（3次元）の処理Ⅰ（オプティカルフロー）＋調査課題Ⅵ（目標2）</li> <li>8. 動画データ（3次元）の処理Ⅱ（空間フィルタ）＋調査課題Ⅶ（目標2）</li> <li>9. 調査課題のプレゼンテーション&amp;質疑応答Ⅰ（各自10分間のプレゼン＋5分の質疑応答）（目標2）</li> <li>10. 脳科学の基礎Ⅰ（神経細胞、ニューラルネットワーク）＋調査課題Ⅷ（目標2）</li> <li>11. 脳科学の基礎Ⅱ（バックプロパゲーション、ディープラーニング、AI技術）＋調査課題Ⅸ（目標2）</li> <li>12. 脳科学の基礎Ⅲ（視覚心理と錯視）＋調査課題Ⅹ（目標3）</li> <li>13. 脳科学の基礎Ⅳ（脳・こころ・意識と知情意）＋調査課題Ⅹ（目標3）</li> <li>14. 3次元コンピュータグラフィックス（3DCG）の原理と応用（目標3）</li> <li>15. 3DCGソフトの活用による教材開発演習（目標3）</li> <li>16. 調査課題のプレゼンテーション&amp;質疑応答Ⅰ（各自15分間のプレゼン＋5分の質疑応答）（目標2）</li> </ol>					
成績評価基準	<p>評価の方法：①調査課題レポート（40点）、②プレゼンテーション（40点）、③授業の取組（20点）総合的に評価する</p> <p>評価の基準：①知識理解、思考：情報科学の基礎理論と関連技術の動向を理解し、自分の教育技術として活かせる。 ②知識理解、思考：情報科学の基礎理論と関連技術の動向を理解し、自分の教育技術として活かせる。 ③関心、態度</p>					
アクティブラーニング	プレゼンテーション、グループワーク					
フィードバックの方法	課題に対してコメントをつけて返却する。					
時間外の学習について	<p>予習：次回の授業のテーマについて、予め調査・研究しておく。90分。</p> <p>復習：毎回の調査課題を整理し、自分なりのまとめのノートを作成しポートフォリオ化する。90分。</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト：特になし</p> <p>参考書：三池秀敏、古賀和利編著「デジタル画像処理」（大学教育出版、2018年）、 参考資料等：</p>					
担当者からのメッセージ等	現代社会に求められている情報活用能力の基本を学び、実践に活かしましょう。					
備考	<p>E-Mail: miike@y-gakugei.ac.jp</p> <p>プレゼンテーション&amp;質疑応答により評価を行い、期末試験は実施しない。</p>					

授 業 科 目 名	教育特別研究 I	教 員 名		免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	
ナンバリングコード	UM5-0027-00000				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	演 習	年次配当	1 年前期	修 了 要 件	必修	
単 位 数	2					
授 業 の テ ー マ	問題意識の明確化、先行研究のレビュー					
授 業 概 要	学生の研究課題に即して、初歩的段階における研究指導を行う。					
達 成 目 標	1. 学問領域について把握するとともに、自らの問題意識を明らかにする。 2. 問題意識を文章化したり発表したりする中で、各自の研究テーマを明確にする。 3. 学問領域における最新の研究動向を調査し整理する。 4. 研究アプローチについても吟味し、各自が依拠する研究アプローチを自覚する。					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	指導においては修了後のキャリア形成を見据えて情報提供や相談を行う。 ①面接授業のみ					
授 業 計 画	1. 学問領域の性格と課題1 (目標 1,2,3,4) 2. 学問領域の性格と課題2 (目標 1,2,3,4) 3. 学問領域の性格と課題3 (目標 1,2,3,4) 4. 最新の研究動向についての概観1 (目標 1,2,3,4) 5. 最新の研究動向についての概観2 (目標 1,2,3,4) 6. 最新の研究動向についての概観3 (目標 1,2,3,4) 7. 最新の研究動向についての概観4 (目標 1,2,3,4) 8. 最新の研究動向についての概観5 (目標 1,2,3,4) 9. 問題意識の明確化および先行研究のレビュー1 (目標 1,2,3,4) 10. 問題意識の明確化および先行研究のレビュー2 (目標 1,2,3,4) 11. 問題意識の明確化および先行研究のレビュー3 (目標 1,2,3,4) 12. 問題意識の明確化および先行研究のレビュー4 (目標 1,2,3,4) 13. 問題意識の明確化および先行研究のレビュー5 (目標 1,2,3,4) 14. 問題意識の明確化および先行研究のレビュー6 (目標 1,2,3,4) 15. 研究構想のまとめ (目標 1,2,3,4)					
成 績 評 価 基 準	評価の方法：①授業中の取組・プレゼン50% ②レポート50% 評価の基準：①知識、思考：学問領域をふまえ、自分の研究テーマを明確にできるか。 ②知識、思考：学問領域をふまえ、自分の研究テーマを明確にできるか。					
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、					
フィードバックの方法	毎時、学生には課題を出す。課題回収後に解説を行う。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：資料を読み、プレゼンが出来るように準備すること。90分 復習：授業で扱った内容については復習し、関連事項を調べておくこと。90分					
教 材 に か か わ る 情 報	テキスト：特になし 参 考 書：適宜紹介する。 参 考 資 料 等：特になし					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ 等						
備 考						



授 業 科 目 名	教育特別研究Ⅱ	教 員 名		免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	
ナンバリングコード	UM5-0028-00000				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	演 習	年次配当	1年後期	修 了 要 件	必修	
単 位 数	2					
授 業 の テ ー マ	調査、資料収集、分析					
授 業 概 要	学生の研究課題に即して、調査段階・資料収集における研究指導を行う。					
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究アプローチに依拠しつつ文献資料の収集、精読、実態調査等を行う。</li> <li>2. 自己の解釈に基づいて先行研究を評価・解釈するとともに、問題意識を深化発展させる。</li> <li>3. (研究テーマによっては) 実態調査や質問紙調査の研究方法についても学ぶ。</li> <li>4. 学術研究大会に参加するなどして研究活動の条件や研究の発展性についても学ぶ。</li> </ol>					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	指導においては修了後のキャリア形成を見据えて情報提供や相談を行う。 ①面接授業のみ					
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究アプローチの確認 (目標 1,2,3,4)</li> <li>2. 文献資料の収集および精読 または実態調査 1 (目標 1,2,3,4)</li> <li>3. 文献資料の収集および精読 または実態調査 2 (目標 1,2,3,4)</li> <li>4. 文献資料の収集および精読 または実態調査 3 (目標 1,2,3,4)</li> <li>5. 文献資料の収集および精読 または実態調査 4 (目標 1,2,3,4)</li> <li>6. 文献資料の収集および精読 または実態調査 5 (目標 1,2,3,4)</li> <li>7. 文献資料の収集および精読 または実態調査 6 (目標 1,2,3,4)</li> <li>8. 文献資料の収集および精読 または実態調査 7 (目標 1,2,3,4)</li> <li>9. 文献資料の収集および精読 または実態調査 8 (目標 1,2,3,4)</li> <li>10. 文献資料の収集および精読 または実態調査 9 (目標 1,2,3,4)</li> <li>11. 文献資料の収集および精読 または実態調査 10 (目標 1,2,3,4)</li> <li>12. 文献資料の収集および精読 または実態調査 11 (目標 1,2,3,4)</li> <li>13. 文献資料の収集および精読 または実態調査 12 (目標 1,2,3,4)</li> <li>14. 文献資料の収集および精読 または実態調査 13 (目標 1,2,3,4)</li> <li>15. 調査結果のまとめ、資料整理 (目標 1,2,3,4)</li> </ol>					
成 績 評 価 基 準	評価の方法：①授業中の取組・プレゼン 50% ②レポート 50% 評価の基準：①知識、技能、思考：文献資料をよみとくことができるか、実態調査の方法を理解したか。 ②知識、技能、思考：文献資料をよみとくことができるか、実態調査の方法を理解したか。					
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション					
フィードバックの方法	毎時、学生には課題を出す。課題回収後に解説を行う。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：資料を読み、プレゼンが出来るように準備すること。90分 復習：授業で扱った内容については復習し、関連事項を調べておくこと。90分					
教 材 に か か わ る 情 報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参 考 資 料 等：特になし					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ 等						
備 考						

授 業 科 目 名	教育特別研究Ⅲ	教 員 名		免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	
ナンバリングコード	UM6-0029-00000				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	演 習	年次配当	2年前期	修 了 要 件	必修	
単 位 数	2					
授 業 の テ ー マ	発展的調査、資料の解釈や議論					
授 業 概 要	学生の研究課題に即して、発展的段階における研究指導を行う。					
達 成 目 標	1. 収集した文献資料やデータを整理し、必要に応じて追加調査を行う。 2. 各自の研究目的に即した形で解釈や吟味を行う。 3. 問題意識、研究目的、研究方法、研究成果などの一貫性および妥当性について吟味する。					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	指導においては修了後のキャリア形成を見据えて情報提供や相談を行う。 ①面接授業のみ					
授 業 計 画	1. 文献資料および調査結果の確認および整理1 (目標 1,2,3) 2. 文献資料および調査結果の確認および整理2 (目標 1,2,3) 3. 資料収集または発展的調査、および解釈吟味1 (目標 1,2,3) 4. 資料収集または発展的調査、および解釈吟味2 (目標 1,2,3) 5. 資料収集または発展的調査、および解釈吟味3 (目標 1,2,3) 6. 資料収集または発展的調査、および解釈吟味4 (目標 1,2,3) 7. 資料収集または発展的調査、および解釈吟味5 (目標 1,2,3) 8. 研究論文の執筆および解釈をめぐる議論1 (目標 1,2,3) 9. 研究論文の執筆および解釈をめぐる議論2 (目標 1,2,3) 10. 研究論文の執筆および解釈をめぐる議論3 (目標 1,2,3) 11. 補足的調査および文献資料の収集1 (目標 1,2,3) 12. 補足的調査および文献資料の収集2 (目標 1,2,3) 13. 補足的調査および文献資料の収集3 (目標 1,2,3) 14. 補足的調査および文献資料の収集4 (目標 1,2,3) 15. 研究論文の全体像を吟味 (目標 1,2,3)					
成 績 評 価 基 準	評価の方法：①授業中の取組・プレゼン50%、②レポート50% 評価の基準：①思考、技能、表現：問題意識、研究目的との関係で文献資料、調査結果を評価解釈できるか。 ②思考、技能、表現：問題意識、研究目的との関係で文献資料、調査結果を評価解釈できるか。					
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション					
フィードバックの方法	毎時、学生には課題を出す。課題回収後に解説を行う。					
時 間 外 の 学 習 について	予習：資料を読み、プレゼンが出来るように準備すること。90分 復習：授業で扱った内容については復習し、関連事項を調べておくこと。90分					
教材にかかわる 情 報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参 考 資 料 等：特になし					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ 等						
備 考						

授 業 科 目 名	教育特別研究Ⅳ	教 員 名		免許・資格 との関係	小 学 校 教 諭	
ナンバリングコード	UM6-0030-00000				幼 稚 園 教 諭	
授 業 形 態	演 習	年次配当	2年後期	修 了 要 件	必修	
単 位 数	2					
授 業 の テ ー マ	発展的調査、資料の解釈や議論					
授 業 概 要	学生の研究課題に即して、発展的段階における研究指導を行う。					
達 成 目 標	1. 収集した文献資料やデータを整理し、必要に応じて追加調査を行う。 2. 各自の研究目的に即した形で解釈や吟味を行う。 3. 問題意識、研究目的、研究方法、研究成果などの一貫性および妥当性について吟味する。					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	指導においては修了後のキャリア形成を見据えて情報提供や相談を行う。 ①面接授業のみ					
授 業 計 画	1. 文献資料および調査結果の確認および整理1 (目標 1,2,3) 2. 文献資料および調査結果の確認および整理2 (目標 1,2,3) 3. 資料収集または発展的調査、および解釈吟味1 (目標 1,2,3) 4. 資料収集または発展的調査、および解釈吟味2 (目標 1,2,3) 5. 資料収集または発展的調査、および解釈吟味3 (目標 1,2,3) 6. 資料収集または発展的調査、および解釈吟味4 (目標 1,2,3) 7. 資料収集または発展的調査、および解釈吟味5 (目標 1,2,3) 8. 研究論文の執筆および解釈をめぐる議論1 (目標 1,2,3) 9. 研究論文の執筆および解釈をめぐる議論2 (目標 1,2,3) 10. 研究論文の執筆および解釈をめぐる議論3 (目標 1,2,3) 11. 補足的調査および文献資料の収集1 (目標 1,2,3) 12. 補足的調査および文献資料の収集2 (目標 1,2,3) 13. 補足的調査および文献資料の収集3 (目標 1,2,3) 14. 補足的調査および文献資料の収集4 (目標 1,2,3) 15. 研究論文の全体像を吟味 (目標 1,2,3)					
成 績 評 価 基 準	評価の方法：①授業中の発言・プレゼン 50% ②レポート 50% 評価の基準：①知識、思考、表現：問題意識、研究目的との関係で文献資料、調査結果を評価解釈できるか。 ②知識、思考、表現：問題意識、研究目的との関係で文献資料、調査結果を評価解釈できるか。					
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション					
フィードバックの方法	毎時、学生には課題を出す。課題回収後に解説を行う。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：資料を読み、プレゼンが出来るように準備すること。90分 復習：授業で扱った内容については復習し、関連事項を調べておくこと。90分					
教 材 に か か わ る 情 報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料等：特になし					
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ 等						
備 考						